Brief communication
［査読有り］ 短 報

日本語科目における古典教育プログラムの実践

Practice of classics education program in Japanese language courses

杉本 亜由美
金沢学院短期大学現代教養学科

Ayumi Sugimoto
Department of Liberal Arts, Kanazawa Gakuin College
10 Sue-machi, Kanazawa-shi, Ishikawa, 920-1392 Japan

キーワード：日本語科目，国語教育，古典教育，古典学習，学生の古典嫌い
Key words：Japanese language courses, National language education, Classics education, Classical studies, Students' dislike of classics

抄録

本研究では，学生が本来学ぶべき古典に焦点を当て，受講学生の古典嫌いを克服すべく，筆者が担当した，基盤科目「日本語Ⅱ」の授業内で行った実践授業プログラムの効果を検証した．

授業の内容は，学生の古典嫌いを克服できるように，受講学生が楽しめる参加型プログラムにした．具体的には，多くの受講学生が選んだ「枕草子」をテキストに指定し，古典が持つ音の響きの美しさを体感できるように丁寧に音読する時間を設けたり，原文を参考にして自身で随筆を執筆し，受講学生同士でそれらを味わい，楽しみを共有する古典実践授業を試みた．

検証の結果，授業前のアンケートでは，約7割の受講学生が「古典に興味がない」，「古典学習は嫌いだ」と回答していたが，授業開始後より，古典知識獲得→個別実践演習（セルフワーク）→協働学修（ピア・レビュー）というプロセスを経て，授業後のアンケートでは，全受講学生が「授業内容にとても満足した」，もしくは「授業内容に満足した」との回答が得られた．さらには，個々に実施した事後聞き取り調査での「授業を振り返ってどうか」との質問に，全受講学生が，「古典に少し興味を持つようになった」，「今後，古典作品を読んでみようと思う」，「古典の面白さを知った」等，古典に対する苦手意識を無くす契機に繋がる肯定的な回答をしており，一定の授業効果を確認することができた．

1．背景

2018（平成 30）年改定の高等学校学習指導要領には，国語科に「古典探究」が新設され，共通必履修科目「言語文化」により育成された資質・能力のうち，「伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため，ジャンルとしての古典を学習対象とし，古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し，自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探求する資質・能力の育成を重視した科目[1]としている．

このように，古典学習の必要性は高まりを見せるが，学びの主体である生徒や学生は古典学習に対して消極的傾向があり，生徒や学生の古典嫌いが問題となって久しい．2005（平成 17）年度高等学校教育課程実施状況調査　国語・国語総合生徒質問紙調査「古文が好きか」の質問に，「そう思わない」もしくは「どちらかといえばそう思わない」の割合が 72.6%（前回調査では 74.8%）と，7 割以上が否定的な回答をしていた[2]．また，2013（平成 25）年度全国学力・学習状況調査　中学校第 3 学年生徒質問紙I「古典は好きだ」の質問に，「当てはまる」，「どちらかといえば，当てはまる」，「どちらかといえば，当てはまらない」，「当てはまらない」より選択する結果，「当てはまる 11.2%」，「どちらかといえば，当てはまる 18.1%」，「どちらかといえば，当てはまらない 34.7%」，「当てはまらない 35.2%」と，この調査でも 7 割以上が否定的な回答

をしている[3].

「古典が嫌いだ」とする生徒や学生が多い事実は，本学においても例外ではなく，後述する事前アンケートで古典学習の好き嫌いについて質問したところ，約 7 割の学生が古典学習に興味もなく，嫌いだと回答していた.

これらの理由について，2015（平成 27）年に公表された文部科学省「教育課程企画特別部会における主な意見」[4]には，「古典教育について，70%を超える生徒が古文・漢文が嫌いと回答しているが，これは高校での古典の授業が，大学入試を目標として解釈中心の授業に偏っているからである．本来，古典の面白さや楽しさ，日本の伝統文化を含めて古典を学ぶことが，自国における言語についての理解を深めることになり，グローバル教育にも通じる．自国の文化を知る意味でも，新しい古典教育を含めた科目構成に転換する時期に来ている.」と述べられており，古典教育の必然性について疑いの余地はない.

本研究では，筆者が担当している高等教育機関における日本語科目の授業内で，受講学生の古典嫌いを克服すべく，古典教育プログラムを実践し，その効果を検証することとした.

２．先行研究

古典教育に関する先行研究として，以下のものが挙げられる.

加藤（2010）[5]は，古典を享受する点において，教員自身と学習者の開かれた交流を目論む意識が必要であり，筆者の意見に納得できるかどうか，という批判的な読み方を提案している.

信木（2010）[6]は，テキストにおける古典教材の定番化を批判し，教員が自身で教材開拓するべきだと主張している.

濵田他（2017）[7]は，古典教育改善に関連する実践的研究（アクションリサーチ）を実施した.
中学生を対象とした，3 時間程度の古典授業をデザインし，その授業展開過程，生徒の事前事後の意識調査，ならびに感想記述についての分析を行った．アンケート調査の結果から，今回のプログラムが，生徒の古典に対する内容関与的，自律的な学習動機を高めるうえで有効であったことが明らかとなっている.

また，渡辺（2018）[8]は，「群読」や古典作品の構造理解，さらには古典を学ぶ意義を学習者に気づかせる授業を提案している.

本研究では，上記の先行研究を参考にして，古典嫌いを克服するきっかけづくりを目的とした，古典の楽しさに触れる実践授業をデザインし，その効果を事後アンケートと聞き取り調査から検証することとした.

３．実践内容

3.1.　調査内容

基盤教育科目である，「日本語Ⅱ」科目内において，古典の魅力を受講学生に伝える実践授業を行う．授業では，①古典 DVD 視聴や古典作品の音読によって，視覚や聴覚を刺激しながら古典知識を獲得する．その後，②獲得した古典知識を活用しながら，「枕草子」を参考にした随筆執筆するというセルフワークを実施する．その後，③受講学生同士でペアを組みピア・レビューを行い，互いのオリジナル随筆を共有する．授業終了後，古典知識獲得→個別実践演習（セルフワーク）→協働学修（ピア・レビュー）というプロセスの効果を，事前事後のアンケート，聞き取り調査で検証する.

3.2.　対象科目，対象学生，調査時期

2022 年度後期科目「日本語Ⅱ」受講学生 50 名
2022 年 11 月～12 月実施

3.3.　事前アンケート内容

質問 1：あなたは古典に興味がありますか.
上記の質問に，「はい」もしくは「いいえ」で回答することとした.
質問 2：あなたは古典の学習が好きですか.
上記の質問に，「はい」もしくは「いいえ」で回答することとした.
質問 3：これまでに受けた古典の授業で学んだ作品名を教えてください（複数回答可）.
上記の質問に，作品名を記述することとした.
質問 4：あなたは今後，古典に関する知識を増やしたいと思いますか.
上記の質問に，「はい」もしくは「いいえ」で回答することとした.
質問 5：質問 4 の理由をお聞かせください.
上記の質問に，自由意見を記述することとした.
質問 6：あなたが今後，学びたいと思う古典作品があれば教えてください（複数回答可）.
上記の質問に，作品名を記述することとした.

3.4.　授業内容

第 1 回授業：古典知識獲得

事前アンケートで受講学生の希望が最も多かった「枕草子」をテキストとして採用することとした．まずは，三大随筆についての説明から始め，「枕草子」の概要説明をすることとした．その際，DVD 資料を視聴し，受講学生の視覚に訴えた．「枕草子」の概要説明後，比較的理解しやすい「ものづくし」の段に焦点を当て，原文と現代語訳を確認した．その際，古文の持つ音の美しさを体感できるように，音読の時間を設けた．

第 2 回授業：個別実践演習（セルフワーク）

前回の授業で確認した「ものづくし」段の中から，自身の興味のある段を参考にして，オリジナル随筆を執筆することとした．

第 3 回授業：協働学修（ピア・レビュー）

受講学生同士でペアを組み，前回の授業で執筆したオリジナル随筆を，ピア・レビューを実施することとした．ペアでお互いに，オリジナル随筆を読み合い，相手の随筆の良い所や改善点を言い合う時間を設けた．

授業の最後に，相手の随筆を読んだ感想，気づき，学びについて記述し，受講生内で共有することとした．

3.5.　事後アンケート内容

質問 1：授業内容は理解できましたか．

上記の質問に，「とても理解できた」，「理解できた」，「あまり理解できなかった」，「全く理解できなかった」より選択することとした．

質問 2：授業で「枕草子」に触れてみていかがでしたか．

上記の質問に，自由意見を記述することとした．

質問 3:古典に興味を持つようになりましたか．

上記の質問に，「はい」もしくは「いいえ」で回答することとした．

質問 4：授業内容に満足しましたか．

上記の質問に，「とても満足した」，「満足した」，「あまり満足しなかった」，「全く満足しなかった」より選択することとした．

質問 5:授業の感想を自由に記入してください．

上記の質問に，自由意見を記述することとした．

3.6.　聞き取り調査内容

事後アンケートとともに，一人 5 分から 10 分程度の聞き取り調査を実施した．質問内容は，授業を振り返ってどうか，古典授業を終えた感想，他人の随筆を読んだ感想等である．

4．結果

以下が結果である（表 1，表 2）．

表 1. 事前アンケート結果　(n=43)

質問 1：あなたは古典に興味がありますか．	
はい 14 名（32.6%）	いいえ 29 名（67.4%）
質問 2：あなたは古典の学習が好きですか．	
はい 13 名（30.2%）	いいえ 30 名（69.8%）
質問 3：これまでに受けた古典の授業で学んだ作品名を教えてください（複数回答可）．	
・徒然草 23 名（53.5%） ・方丈記 12 名（27.9%） ・源氏物語 12 名（27.9%） ・枕草子 7 名（16.3%） ・竹取物語 5 名（11.6%） ・伊勢物語 4 名（9.3%） ・平家物語 2 名（4.7%） ・古事記 1 名（2.3%） ・今昔物語集 1 名（2.3%） ・宇治拾遺物語 1 名（2.3%）	
質問 4：あなたは今後，古典に関する知識を増やしたいと思いますか．	
はい 18 名（42%）	いいえ 25 名（58%）
質問 5：質問 4 の理由をお聞かせください．	
【「はい」の理由】 ・知識の量を増やしたいから 10 名（23.3%） ・前から古典に興味があったから 4 名（9.3%） ・何となく役に立ちそうだから 1 名（2.3%） ・面白そうだから 1 名（2.3%） ・理解できそうだから 1 名（2.3%） ・視野が広がりそうだから 1 名（2.3%） 【「いいえ」の理由】 ・普段使わない知識だから 13 名（30.2%） ・将来，役立つとは思えないから 7 名（16.3%） ・興味がないから 1 名（2.3%） ・面白いと思わないから 1 名（2.3%） ・難しそうだから 1 名（2.3%） ・理解できないから 1 名（2.3%） ・学習する必要性を感じないから 1 名（2.3%）	
質問 6：あなたが今後，学びたいと思う古典作品があれば教えてください（複数回答可）．	
・枕草子 10 名 (23.3%) ・源氏物語 9 名（20.9%） ・伊勢物語 3 名（7.0%） ・土佐日記 2 名（4.7%） ・万葉集 1 名（2.3%） ・竹取物語 1 名（2.3%） ・落窪物語 1 名（2.3%） ・徒然草 1 名（2.3%） ・百人一首 1 名（2.3%）	・特になし 14 名 (32.6%)

表 2. 事後アンケート結果　(n=36)

質問 1：授業は理解できましたか.	
とても理解できた 12 名（33.3%）	理解できた 23 名（63.9%）
あまり理解できなかった 1 名（2.8%）	全く理解できなかった 0 名（－）
質問 2：授業で「枕草子」に触れてみていかがでしたか.	
【好意的な意見】 ・楽しかった 12 名（33.3%） ・普段読むことのない作品に触れることができて良かった 6 名（16.7%） ・古典を学ぶことができた 3 名（8.3%） ・懐かしかった 3 名（8.3%） ・日常の何気ないことに着目していて，素敵な文だと思った 2 名（5.6%） ・面白かった 2 名（5.6%） ・内容は単純なもので難しくないと感じた 1 名（2.8%） ・感情を言葉にするのが上手だと思った 1 名（2.8%） ・昔の人の表現力の高さに驚いた 1 名（2.8%） ・随筆は気軽に読みやすい文章だと思った 1 名（2.8%） 【否定的な意見】 ・難しかった 4 名（11.1%）	
質問 3：古典に興味を持つようになりましたか.	
はい 28 名（77.8%）	いいえ 8 名（22.2%）
質問 4：授業内容に満足しましたか.	
とても満足した 12 名（33.3%）	満足した 24 名（66.7%）
あまり満足しなかった 0 名（－）	全く満足しなかった 0 名（－）
質問 5：授業の感想を自由に記入してください.	
【主な意見】 ・他の人の随筆を読んで，面白いと感じた. ・聞いたり見るだけではなく，自分で考えて文字にしてみることで，難しさや，普段あまり気にしないところも考えて視野が広がってとても面白かった. ・古典作品をもとに自分で文を作るのがすごく難しかったが，古典は好きな方なのでもっとできるようになりたいと思った. ・高校の授業で学んだことはあったが，自分で実際に随筆を書いたことがなかったのでとても難しかった．昔の人の凄さを改めて感じた．また古典文学を学びたいと思った. ・古典の授業を通じて，古典にまつわる言葉や表現などが理解できて良かった. ・古典授業を受講できて良かった.	

5．考察

5.1.　事前アンケート調査の結果考察

事前アンケートの結果，古典に興味があると回答した受講学生は 3 割程度に留まり，7 割近くの受講学生は古典に興味がないと回答していた．この結果と同様に，古典の学習の好き嫌いについても，「好き」は約 3 割，「嫌い」は約 7 割と，ほとんどの受講学生は古典に興味がなく，古典の学習についても否定的な感情を持っていることが明らかとなった.

その理由については，事前アンケートにある質問 5 の結果により，「古典は普段使わない知識だから（30.2%）」，「古典は将来，役立つとは思えないから（16.3%）」，「興味がないから（2.3%）」，「面白いと思わないから（2.3%）」，「難しそうだから（2.3%）」，「理解できないから（2.3%）」，「学習する必要性を感じないから（2.3%）」と，古典に関する知識は実用性が低く，理解しがたいものであると思われていることが分かった.

これらの結果を踏まえ，古典は決して難しいものではないことを学生に実感させるために，古典に関する知識を理解させる講義（授業）ではなく，古典作品を学ぶ楽しさを何らかの形で受講学生に体験させる必要があると考え，知識教育にとらわれた堅苦しい授業ではなく，実際にオリジナルの随筆を書いてみるという，レクリエーションに近い学生参加型実践授業を行うこととした.

また，使用する古典テキストについては，最も多くの受講学生が学びたいと挙げた，「枕草子」を採用することとした．日本三大随筆の一つと言われている「枕草子」は，約 320 段から成り，一つ一つの章段はそれほど長くなく，古典に苦手意識のある受講学生でも読み易い作品であると考えたためである.

5.2.　事後アンケート調査の結果考察

事後アンケートの結果，授業を理解できたと回答した受講学生は 97.2%と，ほとんどの受講学生は「とても理解できた」，もしくは「理解できた」と回答しており，受講学生の授業理解度は高かった．また，授業満足度についても，受講学生全員が，「とても満足した」，もしくは「満足した」と回答しており，高いものであった.

しかしながら，実践授業によって古典への興味が高まった受講学生は 77.8%と，決して低い値ではないが，授業理解度と授業満足度の値と比較すると低いものであった.

授業の感想に関する記述内容については，「授業前に比べて少し古典が好きになった.」，「また読みたいと思う.」，「古典授業は意外と楽しかった.」，

「友達の書いた随筆を読むのは面白かった.」等，授業内容を肯定する回答がほとんどであった．一方で，「古文を読むのは難しい」，「将来，使わない知識だと思うので興味を持つことができない」，等の，否定的な記述もあった．授業で古典学習の必要性を説明したにもかかわらず，それを受け入れない受講学生も少数ながら存在しており，この点をどう解決するかは，今後の課題としたい．

5.3.　聞き取り調査の結果考察

授業終了後に実施した聞き取り調査の結果，全員の受講学生より，古典授業に関する肯定的な回答を得ることができた．

回答内容は，①古典授業に関する肯定的な意見，②「枕草子」から得た学びに関する肯定的な意見，③協働学修（ピア・レビュー）に関する肯定的な意見，に大別される．以下に，主な回答内容を挙げる．

①古典授業に関する肯定的な意見

・古典に触れる機会はあまりなかったので，高校生ぶりに読めたり書いてみたり出来て良かったです．
・古典用語は，覚えたりするのが大変で読み取るのも苦労する時があるけれど，一つ一つの作品の話の内容が面白いので，楽しみも感じられました．自分で随筆を書いてみるのは初めてでした．自分で書いてみるのも楽しいと感じました．
・古典の授業が面白かったので，これからいろいろな古典作品について触れてみようと思いました．
・高校でも随筆を書くようなことはしましたが，やはり楽しかったです．機会があれば次は古語を使って随筆を書いてみたいです．

②「枕草子」から得た学びに関する肯定的な意見

・現代文にしたら理解しやすい内容だったし，昔の人と今の人では，感じ方や考え方が，あまり変わらないなと思いました．だから随筆も書きやすかったです．
・「枕草子」を元に，自分で古語を用いた随筆を書くという事ができて楽しかった．随筆を書くことを通じて，季節の移ろいや自分のなかにあるモノを表現することの楽しみがあったように思います．
・古典の作品は，使われている言葉が素敵だなと思いました．

③ピア・レビューに関する肯定的な意見

・随筆を書くことは少し難しかったけれど，自分が感じたことを率直に書くことができて楽しかったです．友人の随筆は，友人らしくかわいい随筆を書いていて，人と書いた随筆を交換するのも楽しいなと感じました．
・枕草子を参考にして，どのように自分の随筆を書けば良いのか悩みましたが，何とか書くことが出来たので良かったです．他の人の随筆は，言動だけでなく体験した時の気持ちなども書いてあったので，自分の随筆にも取り入れたら良かったなと思いました．
・最後には，オリジナルの随筆を書くことができたので楽しかったです．友達の随筆も見ることができて，考えの幅が広がったので良かったと思いました．
・随筆を書くのが楽しかったです．自分の描きたいことを書けて良かったです．友達の随筆を読んでみて，こういう書き方もあるなとか，こういう話題なんだっていう，自分には考えつかない書き方とか内容が沢山あって，勉強になりました．
・それぞれの感性があらわれた他人の文章を読むのは，面白いと思いました．

以上，授業内容を肯定的に捉える意見が，古典知識獲得→個別実践演習（セルフワーク）→協働学修（ピア・レビュー）というプロセスの効果と絡めて，全受講学生から述べられたことより，当該授業は古典嫌いを克服するきっかけと成り得る，ということが示唆された．

さらに，「古典用語は，覚えたりするのが大変で読み取るのも苦労する時があるけれど，一つ一つの作品の話の内容が面白いので，楽しみも感じられました.」，「現代文にしたら理解しやすい内容だったし，昔の人と今の人では，感じ方や考え方が，あまり変わらないなと思いました.」，「随筆を書くことを通じて，季節の移ろいや自分のなかにあるモノを表現することの楽しみがあったように思います.」，「古典の作品は，使われている言葉が素敵だなと思いました.」という受講学生の意見により，当該授業を受講することにより，古典への理解が深まった可能性も示唆された．

６．まとめ

本研究では，受講学生の古典嫌いを克服すべく，筆者が担当した，基盤科目「日本語Ⅱ」の授業内で行った古典実践授業プログラムの効果を検証した．

古典知識を受講学生の視覚に訴え，また，古文が持つ音の響きの美しさを体感できるように丁寧に音読する時間を設けたり，「枕草子」の原文を参考にしてオリジナル随筆を執筆し，受講学生同士でそれらを味わい，楽しみを共有する実践授業を試み，その効果を検証した結果，授業内容は受講学生の古典に対する苦手意識を無くすきっかけに繋がることが確認でき，一定の授業効果を確認することができた．

但し，この調査結果のみでは一般性を示すことはできない．今後は，同様の調査を継続し，より多くのデータ収集，分析に勤め，効果的な古典教育方法を探究していく所存である．

引用文献

[1]文部科学省．高等学校学習指導要領【2018（平成 30）年改定】．
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm，（参照 2022.12.25）．
[2]国立教育政策研究所．2005（平成 17）年度高等学校教育課程実施状況調査．
https://www.nier.go.jp/kaihatsu/katei_h17_h/index.htm，（参照 2022.12.25）．
[3]国立教育政策研究所．2013（平成 25）年度全国学力・学習状況調査報告書・調査結果資料．
https://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/，（参照 2022.12.25）．
[4]文部科学省．「教育課程企画特別部会における主な意見」【2015（平成 27）年公表】．
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/attach/1361494.htm，（参照 2022.12.25）．
[5]加藤郁夫．日本語の力を鍛える「古典」の授業．明治図書出版．2010．
[6]信木伸一．古文の学習指導の方法．新たな時代を拓く中学校・高等学校国語科研究．2010．
[7]濵田秀行ほか．古典についての学習意欲を高めることをねらいとしたプログラムのアクションリサーチ．群馬大学教育実践研究．2017，第 34 号，p.1-11．
[8]渡辺春美．「関係概念」に基づく古典教育の研究－古典教育活性化のための基礎論として－．溪水社．2018．

Abstract

In this study, the author verified the effectiveness of a practical program conducted in the Japanese II course, a foundation course for which the author was in charge. The students were ask to write their own essays based on the original text of the “MAKURA-NO-SOSHI“ and to taste and share the pleasure of the essays with other students in the class. As a result of the verification, about 70% of the students answered "I am not interested in classics" in the questionnaire before the class, but about all of the students answered "I became a little interested in classics" in the questionnaire after the class, confirming that the class provided an opportunity to eliminate their dislike of classics, indicating that the class had a certain effect.

（受付日：2022 年 12 月 29 日，受理日：2024 年 7 月 26 日）

杉本　亜由美（すぎもと　あゆみ）
現職：金沢学院短期大学現代教養学科専任講師

プロフィール：
成蹊大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学.
専門は日本語教育，キャリア教育.
東京都生まれ．成蹊大学大学院文学研究科，民間企業を経て，現在，学校法人金沢学院に勤務.

主な著書，論文：
杉本亜由美,（初年次学生による小論文の構造分析に関する考察）.『人間生活文化研究：International Journal of Human Culture Studies』2023；p.63-68.
杉本亜由美,（日本語科目における相互評価に関する考察）.『人間生活文化研究：International Journal of Human Culture Studies』2023；p.575-584.　　など